

京都大学

生態学研究センター・ニュース No. 42 業績目録

京都大学生態学研究センター

Homepage: <http://ecology.kyoto-u.ac.jp>

センター長 和田英太郎

Center for Ecological Research
Kyoto University

目次

- はじめに
 - 活動報告
 - 共同研究
 - 講演活動
 - 著作リストの収録内容と凡例
 - A. Staffs スタッフ
 - B. Research Students and Fellows 大学院生・研修員
 - C. Guest Scientists 協力研究員
 - 生態研セミナー
 - 調査船「はす」運航表
 - あとがき
-

はじめに

1996年度（平成8年度）には、当生態学研究センターの外部評価と自己点検評価を行いました。外部からの専門評価委員や社会的評価委員の方々に当研究センターのこれまでの活動について適切な評価、コメント、苦言をいただきました。この評価報告は「京都大学生態学研究センター：21世紀の生態学を展望して—現状とこれから」という冊子にまとめることができました。

このような流れの中で、センター内外の御意見を組み入れて1996年業績目録は若干これまでとは異なる形式にさせていただきました。主な点は学術的業績とその他を分けてまとめたことです。センターも10年時限の後期に入り学問的業績、国内外共同利用等々で実質的な成果を問われるフェーズとなりました。所員一同、心して新しい展開をはかっております。今後とも御批判、御支援を心からお願い申し上げます。

生態学研究センター長 和田 英太郎

活動報告

生態学研究センターでは、1996年度に次のような共同利用事業およびセンター運営の活動を行いました（括弧内は当該報告が掲載されているセンターニュース）。

1. 共同研究

1996年度にセンターが行った共同研究は17件であった。その内訳は、1992年度から開始したIGBP（地球圏 - 生物圏国際共同研究計画）の一環としての文部省国際共同研究等経費「水体における物質循環と気候」（代表者：和田英太郎）のほか、文部省科学研究費国際学術研究費4件、同総合研究3件、同一般研究1件、同試験研究2件、その他の文部省科学研究費2件、その他の助成金4件である。

2. 協力研究員

センターとしての研究活動をより推進するために、学内外の研究者に協力研究員（Guest Scientist）を委嘱している（任期2年間）。現在212名が任命されている（センターニュース No.39 にリスト）。

3. 公募研究会など公募事業

1996年度の生態学研究センター公募研究会として、以下の6件が実施され、延べ13日、参加延べ人数506名のもとに、それぞれ活発な議論が展開された。

1. フィールドワークから実験生物学へ、代表者：三枝誠行（岡山大・理）、実施期日（場所）：1996年7月26日（京都大学理学部）、提供話題数5題、参加人数17名（センターニュース No.40）
2. 地球環境の変遷と微生物のサヴァイバル、代表者：片山葉子（東京農工大・農）、実施期日（場所）：1996年8月24-25日（岐阜大学教育学部）、提供話題数11題、参加延べ人数68名（センターニュース No.40）
3. ブナの繁殖・更新過程の地理変異に関するネットワーク研究、代表者：浅野透（京大・生態研センター）、実施期日（場所）：1996年9月13-14日（群馬県玉原朝日の森）、提供話題数5題およびエクスカーション、参加延べ人数32名（センターニュース No.39）
4. 水辺の生物群集：人為の影響と生息場所の保全、代表者：江崎保男（姫路工業大・自然・環境科学研）、実施期日（場所）：1996年9月20-22日（兵庫県人と自然の博物館・神戸大学）、提供話題数15題、参加延べ人数260名（センターニュース No.39）
5. 地図の上で群集を考える、代表者：岩崎敬二（奈良大・教育）・佐久間大輔（大阪市自然史博）、実施期日（場所）：1996年10月11-13日（京都府田辺町・南山城村）、提供話題数11題およびエクスカーション、参加人数30名、参加延べ人数76名（センターニュース No.41）
6. 水循環と生物のかかわり - 水の安定同位体比を用いた研究の可能性をさぐる -、代表者：大畑哲夫（滋賀県立大・環境科学）、実施期日（場所）：1997年2月7-8日（京都大学理学部）、提供話題数18題、参加延べ人数53名（センターニュース No.41）

セミナー：

国際セミナー「西太平洋アジア国際野外生物学コース・第2回バイカル湖」、世話人：和田英太郎、松原健司（京大生態研センター）、実施期日（場所）：1996年8月7日-26日（ロシア・イルクーツク）受講者10名（日本8名、シンガポール1名、韓国1名）（センターニュース No.39）

実 習：延べ 15 日 108 名

- 「生態学分野の若手研究者を対象とした核酸の取扱実習」、代表者：清水勇、榊元敏也、長谷川英祐（京大生態研センター）、実施期日（場所）：平成 8 年 7 月 29 日～8 月 2 日（京大大学生態学研究センター京都分室）、講師 3 名、受講者 6 名（センターニュース No.39）
- 「河川の微地形と生物の生息場所利用」、代表者：谷田一三（大阪府立大学総合科学部）、遊磨正秀（京大生態研センター）、実施期日（場所）：平成 8 年 7 月 26 日～8 月 2 日（長野県木曾郡木曾福島町）、受講者 9 名（センターニュース No.39）

4．国際シンポジウム

国際シンポジウム「シロアリ：その共生系、社会性と地球規模での多様化」、世話人：安部琢哉、東正彦、井上徹志（京大生態研センター）、実施期日（場所）：1997 年 3 月 10 日～15 日（京都・京大大会館）、参加者 50 名（センターニュース No.43）

5．生態研セミナー

このセミナーは生態学研究センターの共通セミナーとして定期的開催。1996 年は 27 回（オーガナイザー：山村）開催した。毎月 2 回（原則として第 1、第 3 金曜日に）、毎回 2 人に 1 時間ずつ（発表 50 分、議論 10 分）話題を提供していただいた。会場は、主として京大理学部の新館（2 号館）で、随時、京大生態学研究センター（大津）で行った。センター内からは 16 人、海外からは 12 人の講演者があった。参加人数は各回 17 から 70 名、延べ 818 名であった。

6．ニュースレターの発行

生態学研究センターの活動を全国の生態学に興味をもたれている方々に知っていただくため、隔月にニュースレターを発行した。1996 年度は第 36 号（4 月 20 日、16 頁）、第 35 号（5 月、生態学研究センター業績目録の特集号、61 頁）、第 37 号（6 月 20 日、10 頁）、第 38 号（8 月 20 日、10 頁）、第 39 号（10 月 20 日、14 頁）、第 40 号（12 月 20 日、8 頁）、第 41 号（2 月 20 日、8 頁）を発行した。現在、個人 757 件、機関 514 件、計 1271 件に送付されている。ニュースレターには生態学研究センターの活動のみならず、広く生態学一般の情報を提供している。

7．共同利用施設の充実

（1）大型機器分析：安定同位体比精密測定用質量分析計システムの平成 8 年度の共同利用は、名古屋大学農学部、東北大学理学部、京都大学理学研究科、同工学研究科(2 件)、同農学研究科(2 件)であった。平成 7 年 3 月に DNA シ - クエンサ - 一式が当センタ - に導入された。構成機種は Applied Biosystem-Perin Elmer 373SDNA sequencer、Gene Amp PCR2400、DNA synthesizer 392 である。これらの機械は京都分室に設置され、整備後、全国共同利用に供せられている(センタ - ニュ - ス No 33)。平成 8 年度の共同利用は、京都大学理学研究科(3 件)、奈良女子大学理学部(1 件)、森林総研(3 件)であった。

（2）生態情報アクセス・システム：生態学研究センター内はマッキントッシュ約 30 台のアップルトラックで連結され、『京大大学生態学研究センターニュース』などの編集もすべて、このシステムで行われている。また、旧臨湖実験所より移管された標本のデータベース化の作業を進めている。本年度もセンターニュースなど、センターの情報にパソコン通信でアクセスできる BBS を運営している。1996 年 3 月には WWW ホームページを開設し、セミナー案内、センターニュース、学会へのアクセスなどの情報を提供を開始した。（<http://ecology.kyoto-u.ac.jp> or <http://ecology.kyoto->

u.ac.jp/indexj.html) 現在、京都大学ホームページと京大動物生態のホームページからリンクを受けている。

(3) 船の利用：当センターの観測調査船「はす」は、センターの調査・観測だけでなく、琵琶湖で調査や実習をされる方々にも共同利用されている。1995年度の共同利用は、実習1件1日(5名)、観測調査26件34日(延べ131名)であった。このほか当センターが実施している毎月の定期観測時12件12日の同乗者(延べ58名)やセンター教官との共同研究による利用もあった(合計39件47日延べ194名)。

8. 協議員会・運営委員会の開催

- 2月13日 運営委員会(議題：教官人事、センター内規及び申し合わせの改正、平成9年度概算要求について、他2件)(センターニュースNo.36)
- 2月16日 協議員会(議題：次期センター長候補者、教官人事、平成9年度概算要求について、他3件)(センターニュースNo.36)
- 7月(書類送付による) 協議員会(議題：リサーチ・アシスタント選考基準及び研究支援推進員選考基準について)(センターニュースNo.40)



共同研究

1996年度の文部省科学研究費などによるセンタースタッフが関係した共同研究をまとめました。研究者は代表者を筆頭とし、センタースタッフは斜体文字で示し、センタースタッフ以外の分担研究者については省略してあります。

- 和田・中西・安部・遊磨・成田・杉本・田端・藤田・川那部ほか
「水体における物質循環と気候」
1992-96 文部省国際共同研究等経費(IGBP経費)
- 長野敏英(東農大・農)、和田ほか
「熱帯湿性林地域における生物生産性の維持メカニズムの解明と環境修復技術の開発」
1995-99 文部省科学研究費創成的基礎研究
- 安部・東・杉本ほか
「生物多様性を促進する共生と社会性の発達」
1995-96 文部省科学研究費総合研究(A)
- 甲山隆司(北大・地球環境)・菊沢ほか
「林木集団の構築メカニズム：マルチディメンジョンモデルによる解析」
1995-96 文部省科学研究費総合研究(A)
- 山本進一(岡山大・農)・中静ほか
「大面積長期継続プロットによる森林動態研究」
1995-96 文部省科学研究費総合研究(A)
- 川那部・和田・中西・遊磨・成田ほか
「琵琶湖沿岸域における環境変動とそれに対する生物群集の動態」
1995-97 文部省科学研究費一般研究(B)
- 井上・湯本ほか
「東南アジア熱帯雨林の林冠構造と生物多様性の研究」
1994-96 文部省科学研究費国際学術研究

- 安部・東・杉本 ほか
「シロアリの地球規模での多様化プロセス：そのパタンと成因機構」
1995-96 文部省科学研究費国際学術研究
- 川那部・遊磨・成田 ほか
「B B T M湖（琵琶湖・バイカル湖・タンガニイカ湖・マラウイ湖）生態系における生物多様性促進機構の比較研究」
1995-96 文部省科学研究費国際学術研究
- 伊沢紘生（宮城教育大・教育）、湯本 ほか
「新世界ザル社会にみられる父系構造とその適応的意味に関する研究」
1995-97 文部省科学研究費国際学術研究
- 吉岡崇仁（名大・大気水圏研）、和田 ほか
「不均一系微小粒子の生物活性測定システムの開発」
1994-96 文部省科学研究費試験研究（B）
- 紙谷智彦（新潟大・農）・中静 ほか
「落葉広葉樹薪炭林の天然林型用材林への誘導技術」
1995-96 文部省科学研究費試験研究（B）
- 杉本
「ミズゴケ泥炭湿地の水循環とメタン生成 - 生態学・地球科学的総合的研究」
1996 文部省科学研究費奨励研究（A）
- 河合崇欣（環境研）、和田 ほか
「バイカル湖湖底泥を用いる長期環境変動の解析に関する国際共同研究」
1995-99 科学技術庁振興調整費
- 名越誠（奈良女大・理）、成田 ほか
「沖合生態系の異変に伴う食物連鎖構造の解析」
1995-96 琵琶湖研究所委託研究
- 犬伏和之（千葉大・園芸）・杉本 ほか
「水田・低湿地における温室効果ガスの生成・分解のメカニズムに関する研究」
1995-96 日産学術研究助成
- 遊磨 ほか
「身近な水辺の自然：「人 - 水 - 生き物」相互作用系の研究」
1995-96 日本生命財団研究助成

講演活動

1996年センターのスタッフが行った講演活動の一部のリストです。これ以外にも多数の講演が行われました。

- 榎元敏也、Jurie Intachat（1996/3/29）マレーシア熱帯雨林におけるクモ類群集の組成。第43回日本生態学会大会，東京都立大学。
- 榎元敏也、榎元智子、吉田真、西川喜朗（1996/8/25）ミズグモの保全生態学—生息環境、水中行動、分散— 第28回日本蜘蛛学会，国分寺。
- 和田英太郎（1996/1/19）生物多様性国際共同研究：西太平洋・アジアネットワーク構想について、環境研セミナー、国立環境研究所。
- 和田英太郎（1996/2/15）Stable Isotopes in the Environment. JRDC (Research Development Corporation of Japan) Forum for Multi-disciplinary Researches. Sapporo.
- 和田英太郎（1996/3/4-6）Isotope Biogeochemical Structures of Several Aquatic Ecosystems with Emphasis on N₂ Fixation. International Workshop on Response of Coral Reefs to Global Change. Tsukuba, Japan.

- 和田英太郎 (1996/3/30) 地球化学的手法を用いた陸域生態系の解析. 日本生態学会 43 回大会、東京都立大学。
 - 和田英太郎 (1996/5/6) Biodiversity of Carbon and Nitrogen Isotope Ratios for Assessing Ecosystem Structure and its Perturbation. International Symposium on Transect Studies on Global Change and Biodiversity. Beijing, China.
 - 和田英太郎 (1996/5/31) Inter- and Intra-molecular SI distributions of Biogenic Substances. The JRDC Workshop on Material History. Science and Technology for the Global Environment - Environment Measurement and Analysis. Shonan International Village Center, Hayama, Kanagawa, Japan.
 - 和田英太郎 (1996/11/11) Stable Isotope Ecology. Seminar, Department of Chemistry, The Prince of Songkla University, Hat Yai, Thailand.
 - 和田英太郎 (1996/9/20) 生物から見た地球環境の変遷. 日本動物学会講演会、札幌。
 - 和田英太郎 (1996/10/22-23) Stable Isotopic Structures of an Watershed. Workshop on Water Quality between Kansai and Quebec State, Montreal.
 - 和田英太郎 (1996/12/14) 循環と共生から見たバイカル湖. 日本学術会議公開講演会「バイカル湖 - 環境、生態系と進化」、国立科学博物館、上野。
 - 和田英太郎 (1996/12/19) IGBP-MESSC 後期について. 日本学術会議講演会「地球環境変化と炭素循環」、日本学術会議。
 - 遊磨正秀 (1996/1/8-11) 「日本の自然：水田農耕と生物群集の歴史に関する推論」. 第 7 回京都国際セミナー「安定社会の総合研究：ものをつくる・つかう」、京都府 京北町。
 - 遊磨正秀 (1996/3/26) 「ホタルと水環境」、水環境シンポジウム, 大阪市。
 - 遊磨正秀 (1996/3/29) 「農業水路と河川のホタル」、シンポジウム「環境保全・復元と生物群集：群集から水辺の環境を考える」、第 43 回日本生態学会大会, 八王子市。
 - 遊磨正秀 (1996/4/12) 「身近な水辺の生物群集 - 水田農耕とのかかわりにおいて - 」, 「都市河川の生態系保全・環境整備と自治体の取組み事例」講習会, 東京。
 - 遊磨正秀 (1996/4/26) 「水辺の生物群集の特性と保全について」、平成 7 年度滋賀県環境アセスメント協会技術セミナー「生物生態系の調査と保全について - これからの環境アセスメントに求められるもの - 」, 守山市。
 - 遊磨正秀 (1996/4/28) パネル・ディスカッション「湖沼の生態系保全の道を探る」、パネラー, 余呉湖生態系保全シンポジウム, 滋賀県余呉町。
 - 遊磨正秀 (1996/6/9) パネル・フォーラム「住環境創造と三郷のホタル」、パネラー, 第 3 回ホタルサミット, 徳島県三郷町。
 - 遊磨正秀 (1996/6/15) 「ヘイケボタル七不思議考」、第 29 回全国ホタル研究会, 福山市。
 - 遊磨正秀 (1996/7/10) 「身近な水辺の生き物たち」、平成 8 年度生活排水対策担当者会議, 東京。
 - 遊磨正秀 (1996/8/18) 「身近な生き物と人の不思議な関係」、橿原市昆虫館第 18 回昆虫セミナー, 橿原市。
 - 遊磨正秀 (1996/8/22) 「ホタルの住む身近な水辺」、水辺環境シンポジウム, 高山市。
 - 遊磨正秀 (1996/9/8) 「水辺の生態学」、第 4 回郷土の自然を考える講演会, 津島市。
 - 遊磨正秀 (1996/9/13) 「農村環境と水環境」、土木学会関西支部共同研究グループ研究会, 大阪市。
 - 遊磨正秀 (1996/9/17) 「環境と人間を考える」、パネラー, 日本建築学会大会関連シンポジウム, 大津市。
 - 遊磨正秀 (1996/9/19) 「身近な環境について考える」、環境学習講座, 大津市。
 - 遊磨正秀 (1996/9/20) 「農業水路とホタル」、研究集会「水辺の生物群集」、三田市。
 - 遊磨正秀 (1996/10/25) 「身近な自然環境における生き物と人のかかわり - 水生動物を中心に」、1996 年度第 13 回東京都立大生物学科教室セミナー。
 - 湯本貴和 (1996/8/23) 「サラワク・ランビル国立公園における林冠生物学計画」、国際生態学センターセミナー、Damai Beach、Malaysia。
-

著作リストの収録内容と凡例

1. 第6巻著作リストには生態学研究センターの構成員（スタッフ，大学院生および研修員）および協力研究員が，1996（平成8）年（「年度」ではない）に発表した著作を収録します．印刷中のものも，発表年が1997年以降になるものは収録しません．

2. 配列は，(A) スタッフ, (B) 大学院生および研修員, (C) 協力研究員のそれぞれについて，名前のアルファベット順です．協力研究員については，前センター長を除いて，各巻ごとに1)からはじまるナンバーをふります．スタッフと大学院生については，著作の種別（「原著論文」，「著書」，「その他」）ごとに示しています．「著書」は，単著か編著のいずれかに限り，分担執筆は内容によって「原著論文」か「その他」に区分してあります．

3. 協力研究員については，著作リストに載せる・載せないは，各研究員の自由意志とし，「載せてもよい」と判断された方の，そして判断された著作だけを収録しています．ご協力ありがとうございました．

4. 印刷の形式は欧文・和文にかかわらず以下の3通りとしました：

(a) 定期刊行学術誌掲載の論文など

カバ -) 著者名{著者名; ...} (刊行年) 論文タイトル. 定期刊行物名 巻: 始ページ - 終ページ. [キウト]

(b) 単行本（含翻訳）など

カバ -) 著者名{著者名; ...} (刊行年) 著書タイトル. 総ページ pp. 出版社, 所在地. [キウト]

(c) 単行本のなかに掲載の論文など

カバ -) 著者名{著者名; ...} (刊行年) 論文タイトル. In: 単行本名. (ed. by 編者名{...}) pp. 始ページ - 終ページ. 出版社, 所在地. [キウト]

A. Staffs スタッフ

原著論文

ABE, Takuya 安部琢哉

Higashi, M. and Abe, T. (1997) Global diversification of termites driven by the evolution of symbiosis and sociality. In: Biodiversity: A Ecological Perspective. (ed. by Abe, T., Simon, S.A. and Higashi, M). pp.83-112. Springer-Verlag, N.Y., USA .

HIGASHI, Masahiko 東正彦

Higashi, M. and Abe, T. (1996) Global diversification of termites driven by the evolution of symbiosis and sociality. In: Biodiversity: A Ecological Perspective. (ed. by Abe, T., Simon, S.A. and Higashi, M). Springer-Verlag, N.Y., USA. pp. 83-112.

INOUE, Tamiji 井上民二

Itioka, T.; Inoue, T. (1996) The role of predators and attendant ants in the regulation and persistence of a population of the citrus mealybug *Pseudococcus citriculus* in a Satsuma Orange Orchard. Applied Entomology and Zoology 31(2): 195-202.

Salmah, S.; Inoue, T.; Sakagami, S. F. (1996) Incubation period and post-emergence pigmentation in the Sumatran stingless bee *Trigona (Heterotrigona) itama* (Apidae, Meliponinae). Japanese Journal of Entomology 64(2): 401-411.

- Itioka, T.; Inoue, T. (1996) The consequences of ant-attendance to the biological control of the red wax scale insect *Ceroplastes rubens* by *Anicetus beneficus*. *Journal of Applied Ecology* 33: 609-618.
- Inoue, T.; Salmah, S.; Sakagami, S. (1996) Individual variations in worker polyethism of the Sumatran stingless bee, *Trigona (Tetragonula) minangkabau* (Apidae, Meliponinae). *Japanese Journal of Entomology* 64 (3): 641-668.
- Inoue, T. (1996) Biodiversity in Western Pacific and Asia and an action plan for the first phase of DIWPA. In: DIWPA Series Volume 1 (eds. by Turner, I. M.; Diong, C. H.; Lim, S. S. L.; Ng, P. K. L.) pp. 13-31.
- Yumoto, T.; Inoue, T.; Hamid, A. A. (1996) Monitoring and inventorying system in canopy biology program in Sarawak, Malaysia. In: DIWPA Series Volume 1. (eds. by Turner, I. M.; Diong, C. H.; Lim, S. S. L.; Ng, P. K. L.) pp. 203-215.
- Itioka, T.; Inoue, T. (1996) Density-dependent ant attendance and its effects on the parasitism of a honeydew-producing scale insect, *Ceroplastes rubens*. *Oecologia* 106: 448-454.
- Momose, K.; Nagamitsu, T.; Inoue, T. (1996) The reproductive ecology of an emergent dipterocarp in a lowland rainforest in Sarawak. *Plant Species Biology* 11: 189-198.

KIKUZAWA, Kihachiro 菊沢喜八郎

- Kikuzawa, K. (1996) Geographical distribution of leaf life span and species diversity of trees simulated by a leaf-longevity model. *Vegetatio* 122:61-67.
- Kikuzawa, K. & Umeki, K. (1996) Effect of canopy structure on degree of asymmetry of competition in two forest stands in northern Japan. *Annals of Botany* 77 : 565-577
- Kikuzawa, K., Koyama, H., Umeki, K. & Lechowicz, M. J. (1996) Some evidence for an adaptive linkage between leaf phenology and shoot architecture in sapling trees. *Functional Ecology* 10 : 252-257.
- Seiwa, K. & Kikuzawa, K. (1996) Importance of seed size for establishment of seedlings of five deciduous broad-leaved tree species. *Vegetatio* 123:51-64.
- 菊沢喜八郎 (1996) フェノロジーにもとづいた樹種多様性の緯度・高度勾配. *日本生態学会誌* 46 : 69-72.

NAKASHIZUKA, Tohru 中静透

- Fukamachi, K., Iida, S. & Nakashizuka, T. (1996) Landscape patterns and plant species diversity of forest reserves in the Kanto region, Japan. *Vegetatio* 124: 107-114.
- Takada, T. & Nakashizuka, T. (1996) Density-dependent demography in a Japanese broad-leaved forest. *Vegetatio* 124: 211-221.

SUGIMOTO, Atsuko 杉本敦子

- Sugimoto, A. (1996) GC/GC/C/IRMS system for carbon isotope measurement of low level methane concentration. *Geochem J.* 30:195-200.

URABE, Jotaro 占部城太郎

- Urabe, J., K. Kawabata, M. Nakanishi and K. Shimizu (1996) Grazing and food size selection of zooplankton community in Lake Biwa during BITEX '93. *Jpn. J. Limnol.*, 57: 27-37.
- Urabe, J. and R. W. Sterner (1996) Regulation of herbivore growth by the balance of light and nutrients. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, 93: 8465-8469.
- Nagata, T., K. Takai, K. Kawabata, M. Nakanishi and J. Urabe (1996) The trophic transfer via a picoplankton-flagellate-copepod food chain during a picocyanobacterial bloom in Lake Biwa. *Arch. Hydrobiol.*, 137: 145-160.

WADA, Eitaro 和田英太郎

- Wada, E. and Yoshioka, T. (1996) Isotope Biogeochemistry of Several Aquatic Ecosystems. *Geochemistry International*, 33(5) : 129-149.
- Wada, E., Yoshida, N., Yoshioka, T., Yoh, M. and Kabaya, Y. (1996) The abundance of ^{15}N in N_2O in aquatic ecosystems with emphasis on denitrification. *Mitt. Internat. Verein. Limnol.*
- Mitteilungen - Communication, 25 'Cycling of reduced gases in the hydrosphere', 115-123.
- 宮島利宏, 和田英太郎, 半場祐子, P. Vijarnsorn (1996) 熱帯湿地林の泥炭土壌における嫌気分解・メタン生成系の特性. *Jp. J. Lim.* 57, No. 1, 79-88.
- Hanba, Y. T., Wada, E., Osaki, M. and Nakamura, T. (1996) Growth and $\delta^{13}\text{C}$ Responses to Increasing Atmospheric Carbon Dioxide Concentrations for Several Crop Species. *Isotopes Environ. Health Stud.* 32, 41-54.
- Wada, E. and Ueda, S. (1996) Carbon, Nitrogen, and Oxygen Isotope Ratios of CH_4 and N_2O in Soil Ecosystems. In "Mass Spectrometry of Soils". Boutton, T. W. and Yamasaki, S. (Eds.), Marcel Dekker, Inc. 177-204.
- Hanba, Y. T., Matsui, K. and Wada, E. (1996) Solar Radiation Affects Modern Tree-Ring $\delta^{13}\text{C}$: Observations at a Cool-Temperate Forest in Japan. *Isotopes Environ. Health Stud.* 32, 55-62.
- 大河内直彦, 和田英太郎, 河村公隆, 平朝彦 (1996) アルケノン生産量と窒素同位体比の関係, *月刊海洋*, Vol. 28, No. 8, 493-497.
- Minoda, T., Kimura, M. and Wada, E. (1996) Photosynthates as dominant source of CH_4 and CO_2 in soil water and CH_4 emitted to the atmosphere from paddy fields. *Journal of Geophysical Research* 101, No. D15, 21091-21097.

YAMAMURA, Norio 山村則男

- Yamamura, N. and Jormalainen, V. (1996) Compromised strategy resolves intersexual conflict over precopulatory mate guarding duration. *Evolutionary Ecology* 10: 661-680.
- Yamamura, N. (1996) Evolution of mutualism: A differential model. *Researches on Population Ecology* 38: 211-218.

YUMA, Masahide 遊磨正秀

- 長坂有・遊磨正秀 (1996) 河畔植生が溪流魚の生息場所利用に及ぼす影響 - ツルヨシ除去によるカワムツ個体数の変化 - . *日本林学会論文集*, 106: 487-490.

YUMOTO, Takakazu 湯本貴和

- Yamagiwa, J., Maruhashi, T., Yumoto, T. and Mwanza, N. (1996) Dietary and ranging overlap in sympatric gorillas and chimpanzees in Kahuzi-Biega National Park, Zaire. In: *Great Ape Society*. (McGrew, W. C., Marchant, L. F. and Nishida, T. eds.) Cambridge University Press. pp.82-98.
- Yumoto, T., Inoue, T. and Hamid, A. A. (1996) Monitoring and inventorying system in Canopy Biology Program in Sarawak, Malaysia. In: *Biodiversity and the Dynamics of Ecosystems*. (Turner, I. M., Diong, C. H., Lim, S. S. L. and Ng, P. K. L. eds.) DIWPA Series Volume 1. pp. 203-215.

著書

ABE, Takuya & HIGASHI, Masahiko 安部琢哉・東正彦

- Abe, T., Simon, S.A. and Higashi, M. (1997) *Biodiversity: A Ecological Perspective*. Springer-Verlag, N.Y., USA.

その他

ABE, Takuya 安部琢哉

- 安部琢哉 (1996) C / N バランス仮説に基づく共生, 生態系の機能, 生物多様性の理解(2). *Tropical Ecology Letters* 22: 1-4.
安部琢哉; 川那部浩哉 (1996) 生物多様性: その生態学的研究の現状と展望. *環境研究* 100: 133-138.
安部琢哉, (1996) シロアリ類. *日本動物大百科. 昆虫*, 1: 98-101. 平凡社.

INOUE, Tamiji 井上民二

- 井上民二 (1996) 熱帯雨林の時間. 時間の森へ マラソンセミナー「人間・生物・時間」が贈る対話・体感・実験のひとつ. pp. 16-35.
井上民二 (1996) トピックス - 熱帯林のフィールドワーカーたち. *週刊朝日百科「植物の世界」* 98: 62-64. 朝日新聞社, 東京.
Inoue, T.; Hamid, A. A. (1996) An approach for understanding and conservation of biodiversity of tropical rainforests. In: *International symposium on transect studies on global change and biodiversity*. pp. 4-5.
井上民二 (1996) 生物多様性の保全と利用をめぐる世界の動向. *地球環境シリーズ* 26. 44 pp. 地球環境関西フォーラム, 大阪.
井上民二 (1996) 自然と文化の境界を超えて. *人環フォーラム*. pp. 2-11. 京都大学大学院人間・環境学研究科.

KIKUZAWA, Kihachiro 菊沢喜八郎

- 菊沢喜八郎 (1996) 植物の資源獲得方法の時間的推移—葉の時間空間的配列—. *フェノロジー研究* 26: 15-17
菊沢喜八郎 (1996) 葉が出る前に咲く花 *植物の世界* 100: (9) 114-115
Seiwa, K. & Kikuzawa, K. (1996) Optimum thinning ratio in a Japanese larch stand. *Proceedings of IUFRO International Workshop on Sustainable Forest Managements. The University Forests, The University of Tokyo.* 237-245.

MASUMOTO, Toshiya 榘元敏也

- 砂原俊彦, 榘元敏也, 小野勇一, 鈴木信彦 (1996) ハタザオの種子被食の時間的な構造 In: *地球共生系: 生物の多種共存を促進する相互作用機構. 平成3年度~平成7年度文部省科学研究費補助金重点領域研究(1) 研究成果報告書*. p 64.
榘元敏也, 砂原俊彦, 小野勇一, 鈴木信彦 (1996) 生育条件の異なるハタザオにおける植食性昆虫の資源利用と被食圧 In: *地球共生系: 生物の多種共存を促進する相互作用機構. 平成3年度~平成7年度文部省科学研究費補助金重点領域研究(1) 研究成果報告書*. p 65.

TATEISHI, Takahiro 立石貴浩

- 立石貴浩 (1996) アカマツ林火災跡地の土壌微生物バイオマスの測定 広島大学総合科学部紀要 理系編 22: 207-210.

URABE, Jotaro 占部城太郎

- 占部城太郎 (1996) ストイキオメトリー: 湖沼生態系研究の新しいアプローチ. *海洋と生物* 18: 12-16.

YAMAMURA, Norio 山村則男

山村則男 (1996) 動物行動学におけるパラダイムの転換. 基礎心理学研究 15-1: 49-50

YUMA, Masahide 遊磨正秀

遊磨正秀 (1996) 常水. 宗報, 平成 8 年新年号:52-53. 浄土真宗本願寺派. 「現代のキーワード水」

遊磨正秀 (1996) ゲンジボタルの生活と水辺の環境. 守山市誌 自然編, 569-599. 守山市.

遊磨正秀 (1996) ヘイケボタル七不思議考. 全国ホタル研究会誌, 29:14-17.

遊磨正秀 (1996) 身近な環境に改めて心を. かんきょう, 11-12.

YUMOTO, Takakazu 湯本貴和

湯本貴和 (1996) 熱帯雨林を林冠から探る. 山田勇編「フィールドワーク最前線」pp. 57-79. 弘文堂.

湯本貴和 (1996) オオバヤドリギ--- 樹上の居候. 井上健編「植物の生き残り作戦」pp.112-121. 平凡社.

湯本貴和 (1996) 熱帯雨林樹上の「祭典」. 日本経済新聞 (1996/11/14)

B. Research Students and Fellows 大学院生・研修員

原著論文

NOZAKI, Kentaro 野崎健太郎

NAKAMOTO, N., YAMAMOTO, M., SAKAI, M., NOZAKI, K., IWASE, N., YASUDA, M. and T. KITADA (1996) Role of Filamentous Diatom as an Automatic Purifier in a Slow Sand Filter. In : N. GRAHAM and R. COLLINS (ed.), *Advances in Slow Sand and Alternative Biological Filtration*, 139-148, John Wiley and Sons.

岩瀬範泰・木崎豊・野崎健太郎・坂井正・中本信忠 (1996) : 緩速ろ過池砂層内の汚泥の垂直分布とその性状. 水環境学会誌, 19 (12) : 61-66.

OKUDA, Noboru 奥田昇

Okuda, N. and Yanagisawa, Y. (1996) Filial cannibalism by mouthbrooding males of the cardinal fish, *Apogon doederleini*, in relation to their physical condition. *Env. Biol. Fish.* 45: 397-404.

Okuda, N. and Yanagisawa, Y. (1996) Filial cannibalism in a paternal mouthbrooding fish in relation to mate availability. *Anim. Behav.* 52: 307-314.

TAYASU, Ichiro 陀安一郎

Tayasu, I.; Shigesada, N.; Mukai, H.; Caswell, H. (1996) Predator-mediated coexistence of epiphytic grass shrimps that compete for refuges. *Ecological Modelling* 84: 1-10.

SAKAI, Shoko 酒井章子

Nagamasu, H.; Sakai, S. (1996) *Amomum roseisquamosum* (Zingiberaceae), a new epiphytic ginger from Borneo. *Edinb. J. Bot.* 53(1): 39-42.

その他

OGAWA, Nanako 小川奈々子

- Ogawa, N and Ogura, N (1996) Dynamics of particulate organics in the eutrophic Tokyo Bay, Japan, p. 49-52. In Researches related to the UNESCO's man and biosphere program in Japan 1994-1995, Coordinating Committee on MAB Programme.
- 小川奈々子・小倉紀雄 (1996) 多摩川河口域における懸濁態有機物の動態とその季節変化—炭素安定同位体比による評価—, p. 1-18., In 沿岸域エコトーンの生態学的特性と環境管理の基礎研究, 平成7年度科学研究費補助金(総合研究)研究成果報告書.
- 小川奈々子・和田英太郎 (1996) 安定同位体比にみられる近過去(1962-1992年)における琵琶湖の変化, p. 31-35. In 平成7年度琵琶湖博物館報告書.

TAYASU, Ichiro 陀安一郎

- 陀安一郎; 安部琢哉 (1996) シロアリの腸内細菌と窒素代謝. バイオサイエンスとインダストリー 54: 36-37.
- Tayasu, I.; Abe, T. (1996) Stable isotope ratios of termite species in the Mbalmayo Forest Reserve, southern Cameroon. Researches related to the UNESCO's Man and the Biosphere Programme in Japan 1995-1996. 1-8.

TSUJI, Akihiro 辻彰洋

- 辻彰洋・橋屋誠 (1996) : コンピュータによる測色を利用した草木染め色素のサーベイとその教材化. 化学と教育. 44(9)

C. Guest Scientists 研究協力員

FUKAMI, Kimio 深見公雄

1. Fukami, K.; N. Murata; Y. Morio; and T. Nishijima. (1996) Distribution of heterotrophic nanoflagellates and their importance as the bacterial consumer in an eutrophic seawater. J. Oceanogr., 52: 399-407.
2. 張敬国; 西島敏隆; 深見公雄 (1996) *Heterosigma akashiwo* によるビタミンB₁₂結合物質の生産とそのB₁₂結合物質の性質. 日本水産学会誌, 62: 647-653.
3. Fukami, K.; K. Sakaguchi; M. Kanou; and T. Nishijima. (1996) Effect of bacterial assemblages on the succession of blooming phytoplankton from *Skeletonema costatum* to *Heterosigma akashiwo*. In: Harmful and Toxic Algal Blooms, Proceedings of the Seventh International Conference on Toxic Phytoplankton., (Eds.) T. Yasumoto, Y. Oshima, and Y. Fukuyo, Intergovernmental Oceanographic Commission of UNESCO, Paris, pp. 335-338.
4. Matsuda, A.; T. Nishijima; and K. Fukami. (1996) Effects of nitrogen deficiency on the PSP production by *Alexandrium catenella* under axenic cultures. In: Harmful and Toxic Algal Blooms, Proceedings of the Seventh International Conference on Toxic Phytoplankton., (Eds.) T. Yasumoto, Y. Oshima, and Y. Fukuyo, Intergovernmental Oceanographic Commission of UNESCO, Paris, 305-308.
5. 深見公雄; 西島敏隆 (1996) 微生物による漁場環境における環境修復. In: 生物機能による環境修復. (ed. by 石田祐三郎; 日野明德), pp. 50-64. 恒星社厚生閣, 東京.

HARAGUCHI, Akira 原口昭

1. Haraguchi, A. (1996) Effect of pH on photosynthesis of five *Sphagnum* species in mires in Ochiishi, Northern Japan. *Wetlands*. 16: 10-14.
2. Haraguchi, A. (1996) Rhizome growth of *Menyanthes trifoliata* L. in a population on a floating peat mat in Mizorogaike Pond, Central Japan. *Aquatic Botany*. 53: 163-173.

IMAI, Ichiro 今井一郎

1. Yamaguchi, M., S. Itakura, K. Nagasaki and I. Imai (1996) Distribution and abundance of resting cysts of the toxic dinoflagellates *Alexandrium tamarense* and *A. catenella* in sediments of the eastern Seto Inland Sea, Japan. Harmful and toxic algal blooms (Yasumoto, T. et al. eds.). p.177-180, IOC-UNESCO.
2. Imai, I., S. Itakura, M. Yamaguchi and T. Honjo (1996) Selective germination of *Heterosigma akashiwo* (Raphidophyceae) cysts in bottom sediments under low light conditions: A possible mechanism of red tide initiation. Harmful and toxic algal blooms (Yasumoto, T. et al. eds.). p.197-200, IOC-UNESCO.
3. Nagai, S., Y. Hori, K. Miyahara, T. Manabe and I. Imai (1996) Population dynamics of *Coscinodiscus walesii* Gran (Bacillariophyceae) in Harima-Nada, Seto Inland Sea, Japan. Harmful and toxic algal blooms (Yasumoto, T. et al. eds.). p.239-242, IOC-UNESCO.
4. Nagasaki, K., S. Itakura, I. Imai, S. Nakagiri and M. Yamaguchi (1996) The disintegration process of a *Heterosigma akashiwo* (Raphidophyceae) red tide in northern Hiroshima Bay, Japan, during the summer of 1994. Harmful and toxic algal blooms (Yasumoto, T. et al. eds.). p.251-254, IOC-UNESCO.
5. Itakura, S., K. Nagasaki, M. Yamaguchi and I. Imai (1996) Species succession between *Skeletonema costatum* and *Heterosigma akashiwo* in Hiroshima Bay, Japan, with special reference to the resting stage cells in the bottom sediments. Harmful and toxic algal blooms (Yasumoto, T. et al. eds.). p.373-376, IOC-UNESCO.
6. Yamaguchi, M. and I. Imai (1996) Size fractionated phytoplankton biomass and primary productivity in Osaka Bay, Japan. *Bull. Nansei Natl. Fish. Res. Inst.* 29: 59-73.
7. 今井一郎・山口峰生 (1996) 北部広島湾における海洋細菌の現存量と生産量, および従属栄養性微小鞭毛虫類の季節変化. 南西水研研報, 29: 75-86.
8. Imai, I., S. Itakura, Y. Matsuyama and M. Yamaguchi (1996) Selenium requirement for growth of a novel red tide flagellate *Chattonella verruculosa* (Raphidophyceae) in culture. *Fish. Sci.* 62: 834-835.
9. 今井一郎・長崎慶三 (1995) 沿岸環境中に存在する殺藻微生物の計数法の検討. 渦鞭毛藻・ラフィド藻等新型赤潮の発生機構と予測技術の開発に関する研究, 平成6年度研究報告書. p.35-44.
10. 今井一郎 (1996) 赤潮の予知・予防・駆除. 防菌防黴, 24(3): 234.
11. 今井一郎 (1996) 殺藻細菌の抗体等による生態解析-接触攻撃型殺藻細菌における赤潮藻類種の殺滅パターン. 平成7年度海洋微生物活用技術開発試験報告書. p.115-121.
12. 今井一郎 (1996) 有害微細藻ブルームの生理生態に関する NATO 研究集会参加雑感. *Microbes and Environments*, 11(2): 61-64.

INUBUSHI, Kazuyuki 犬伏和之

1. Chidthaisong, A.; Inubushi, K.; Muramatsu, Y.; Watanabe, I. (1996) Production potential and emission of methane in flooded rice soil microcosms after continuous application of straws. *Microbes Environm.* 11: 73-78. [flooded rice soil, rice straw, wheat straw, methane production, CO₂ production]
2. Chidthaisong, A.; Inubushi, K.; Watanabe, I. (1996) Methanogenic characteristics of flooded rice soils in response to glucose amendment. *Soil Sci. Plant Nutr.* 42: 645-649. [flooded rice soil, glucose turnover rate, potential methane production activity, CO₂ production]
3. Inubushi, K.; Naganuma, H.; Kitahara, S. (1996) Contribution of denitrification and autotrophic and heterotrophic nitrification to nitrous oxide production in andosols. *Biol.*

- Fertil. Soils. 23: 292-298. [N₂O, moisture, acetylene inhibition, organic substance, andosols]
4. 早野恒一; 犬伏和之; 坂本一憲 (1996) 土壤生化学. 進歩総説第3部門. 土肥誌. 67: 487-489. [土壤酵素、微生物バイオマス、水田土壤]
 5. 犬伏和之; 岡崎正規; 袴田共之 (1996) 地球環境. 進歩総説第8部門. 土肥誌. 67: 587-592. [土壤ガス代謝、メタン、亜酸化窒素、含硫ガス、二酸化炭素、砂漠化、酸性降下物、熱帯林の破壊]
 6. Ueda, T.; Inubushi, K. (1996) Microbial diversity and cycling of nitrogen in soil ecosystems. In: Microbial diversity in time and space. (ed. by Colwell, R.R.; Shimidu, U.; Ohwada, K.). pp.149-155. Plenum Publishing, New York. [microbial biomass, N₂-fixation, turnover, N uptake by plant]

ITINO, Takao 市野隆雄

1. Yamane, Sk.; Itino, T.; Nona, A. R. (1996) Ground ant fauna in a Bornean dipterocarp forest. Raffles Bulletin of Zoology 44: 253-262.
2. Itino, T.; Itioka, T.; Yamane, S.; Fan, Y.; Hatada, A.; Chang, Y.; Cheong J. (1996) Species-specificity in the plant-ant symbiosis between *Macaranga* spp. and *Crematogaster* spp. in a Bornean rain forest. In: Bornean Tropical Rainforest, International Field Biology Course (IFBC) Series 1. (ed. by Yumoto, T.; Inoue, T.). pp. 61-73. The International Network for Diversitas in Western Pacific and Asia.
3. 市野隆雄 (1996) 社会性の進化から群集構造の決定まで - ドロバチ類における天敵回避行動の重要性. In: 昆虫個体群生態学の展開. (ed. by 久野英二). pp. 390-412. 京都大学学術出版会, 京都.
4. 市野隆雄 (1996) ハーバードのアリ学 - 比較動物学博物館での9か月 -. 蟻 20:41-55.
5. 市野隆雄 (1996) バナナの送粉者 - コウモリと鳥. 週刊朝日百科 植物の世界 115号 (バナナ, パイナップル). pp. 198. 朝日新聞社, 東京.
6. 湊正寿; 亀山剛; 伊藤文紀; 市野隆雄 (1996) 香川県のアリ相 (予報). 蟻 20: 9-13.

ITIOKA, Takao 市岡孝朗

1. Itioka, T.; Inoue, T. (1996) The consequences of ant-attendance to the biological control of the red wax scale insect *Ceroplastes rubens* by *Anicetus beneficus*. J. Appl. Ecol. 33: 609-618.
2. Itioka, T.; Inoue, T. (1996) Density-dependent ant attendance and its effects on the parasitism of a honeydew-producing scale insect, *Ceroplastes rubens*. Oecologia 106: 448-454.
3. Itioka, T.; Inoue, T. (1996) The role of predators and attendant ants in the regulation and persistence of a population of the citrus mealybug *Pseudococcus citriculus* in a Satsuma orange orchard. Appl. Entomol. Zool. 31: 195-202.
4. 市岡孝朗 (1996) ウンシュウミカンを寄主植物とするカイガラムシ類ギルドにおける種間相互作用. In: 昆虫個体群生態学の展開. (ed. by 久野英二). pp. 239-263. 京都大学学術出版会, 京都.

IWASA, Yoh 巖佐庸

1. Kubo, T. and Y. Iwasa, 1996. Phenological pattern of tree regeneration in a model for forest species diversity. Theoretical Population Biology 49:90-117. [森林の樹種多様性, 緯度勾配, フェノロジー]
2. Andersson, M., and Y. Iwasa, 1996. "Sexual selection". Trends in Ecology and Evolution 11:53-58. [性淘汰, 総説]
3. van Dam, N., T.J. de Jong, Y. Iwasa and T. Kubo, 1996. Optimal distribution of pyrrolizidine alkaloids in rosette plants of *Cynoglossum officinale* L.: are plants smart investors? Functional Ecology 10: 128-136. [アルカロイド, 最適配分, 実証]

4. Kunin, W. and T. Iwasa, 1996. Pollinator foraging strategies in mixed floral arrays: density effects and floral constancy. *Theoretical Population Biology* 49: 232-263. [ポリネータ, 忠実性, ジェネラリスト, スペシャリスト, ゲーム理論]
5. Harada, Y. and Y. Iwasa. 1996. Female mate preference to receive maximum paternal care: a two-step game. *American Naturalist* 147:996-1027. [鳥類の配偶システム, 配偶者選択, オスによる子の保護, 父性]
6. Mochizuki, A., Y. Iwasa and Y. Takeda, 1996. A stochastic model for cell sorting and measuring cell-cell adhesion. *Journal of Theoretical Biology* 179: 129-146. [セルソーティング, 格子モデル, 細胞接着性推定]
7. Kubo, T., Y. Iwasa and N. Furumoto, 1996. Forest spatial dynamics with gap expansion: total gap area and gap size distribution. *Journal of Theoretical Biology* 180: 229-246. [B C I, ギャップ動態, 熱帯季節林, 格子モデル, ギャップサイズ分布, ペア近似]
8. Iwasa, Y., T. Kubo, N. van Dam and T.J. de Jong, 1996. Optimal level of chemical defense decreasing with leaf age. *Theoretical Population Biology* 50:124-148. [アルカロイド, 最適配分, 理論, 動的最適化]
9. Mochizuki, A., Y. Takeda and Y. Iwasa. 1996. Evolution of genomic imprinting: why are so few genes imprinted? *Genetics* 144:1283-1295. [ゲノムインプリンティング, 量的遺伝学, 遺伝子間コンフリクト]
10. Harada, Y. and Y. Iwasa. 1996. Analyses of spatial patterns and population processes of clonal plants. *Researches on Population Ecology* 38: 153-164. [クローナル植物, 遺伝構造, 繁殖システムの推定, 同一クローン確率]
11. Haccou, P. and Y. Iwasa. 1996. Establishment probability in fluctuating environments: a branching process model. *Theoretical Population Biology* 50:254-280. [侵入可能条件, 変動環境, 人口学的確率性]
12. 巖佐 庸 1996. 好みの進化学. *生命誌* 13:10.
13. 巖佐 庸・甲山隆司・広瀬忠樹 1996. 森林生態系: 地球変化の研究へむけて. 特集『森林系研究の展望: シュートからグローバルチェンジまで』. *日本生態学会誌* 46:53-56.
14. Shigesada, N. and Y. Iwasa. 1996. In memoriam, Ei Teramoto (1925-1996). *Mathematical Biology Newsletter* 9:6.
15. 巖佐 庸・中丸麻由子 1996. 協利行動の進化モデル: 格子上での繰返しゲームについて. *基礎心理学研究* 15:43-45.
16. 八杉竜一他 4 名編、1996. 生物学辞典 (第 4 版) 岩波書店. 生態学項目 (約 1500 項目) の編集者・執筆者 (分担執筆)

IWASAKI, Keizi 岩崎敬二

1. Iwasaki, K. (1996) Vertical changes in density, size structure and shell shape of the bivalve *Lasaea undulata* within intertidal mussel beds. *J. Mar. Biol. Ass. U. K.* 76: 417-430.
2. Iwasaki, K. (1996) Seasonal changes in size structure and reproduction of the minute galeommatacean bivalve *Lasaea undulata*(Gould) within intertidal mussel beds. *Veliger* 39: 244-249.
3. Iwasaki, K. (1996) Vertical distribution and life cycle of the minute trochid snail *Conotalopia mustelina*(Gould) within intertidal mussel zones. *Venus* 55: 223-234.
4. ryu, Y.; Iwasaki, K.; Hinoue, M. (1996) Laboratory experiments on the behaviour and movement of a freshwater mussel, *Limnoperna fortunei*(Dunker). *J. Moll. Stud.* 62: 327-341.
5. Iwasaki, K. (1996) Vertical distribution and life cycle of two isopod crustaceans within intertidal mussel beds. *Benthos Res.* 51: 73-86.
6. 大塚泰介; 岩崎敬二; 熊谷明生; 小西民人 (1996) 琵琶湖南湖東岸における抽水植物帯面積の減少について. *陸水学雑誌* 57: 261-266.

KAWABATA, Keiichi 川幡佳一

1. Kawabata, K. and Urabe, J. (1996) Spatial and temporal changes in zooplankton biomass. Lake Biwa Study Monographs, Special Issue: 147-151.

KAWANABE, Hiroya 川那部浩哉

1995年(追加)

690a) 川那部浩哉 (1995) アユの生態と復元への基本的視点. In Ryukyu-Ayu Forum ijn Nago '91, 9-14. 沖縄総合開発局北部ダム事務所, 名護.

1996年

- 691) 川那部浩哉 (1996) 世界遺産に値する「文化財」、本物の自然回復努力を. 朝日新聞 1996/1/1. (インタビューアー: 石原清之)
- 692) 川那部浩哉; 稲葉稔; 石川政美 (1996) 環境新時代の幕開けを、びわ湖の魚たちも待っています. 滋賀報知新聞 1996/1/1.
- 693) 川那部浩哉 (1996) 菩提寺山麓の大岩. 滋賀の経済と社会, 78: 2-3.
- 694) 川那部浩哉 (1996) 1995年読書アンケート. みずず, 418: 61.
- 695) 川那部浩哉 (1996) 生態学研究センターの5年間を振りかえって. 京大大学生態学研究センター・ニュース, 34: 1-2.
- 696) 安部琢哉; 川那部浩哉 (1996) 生物多様性: その生態学的研究の現状と展望. 環境研究, 1996/No. 100: 133-138.
- 697) Kawanabe, H. (1996) Linkage between ecological complexity and biodiversity. In: Biodiversity, Science and Development (ed. by di Castri, F.; Younes, T.). pp. 149-152. CAB International, Wallingford, UK.
- 698) 川那部浩哉 (1996) 曖昧の生態学. 230 pp. 農山漁村文化協会, 東京.
- 699) 川那部浩哉 (1996) 「水環境」と水域生態系. かんきょう, 21(3): 7-9.
- 700) 川那部浩哉 (1996) 生物界における共生と多様性. 206 pp. 人文書院, 京都.
- 701) 川那部浩哉; 田端英雄, 編 (1996) 生態学から見た安定社会: 里山とその自然の持続的利用. 4+192 pp. 京都ゼミナ - ルハウス, 京北.
- 702) 川那部浩哉 (1996) 開会にあたって、オーガナイザーから. In: 生態学から見た安定社会: 里山とその自然の持続的利用. (ed. by 川那部浩哉; 田端英雄), 3-4. 京都ゼミナ - ルハウス, 京北.
- 703) 川那部浩哉 (1996) 琵琶湖博物館. LAKE, 26: 3.
- 704) 川那部浩哉 (1996) 水辺の生態学. 交流 (中部電力広報誌), 41: 10-13.
- 705) 川那部浩哉 (1996) 種の保存, 多様性が大切なんです. 読売新聞 (夕刊), 1996/5/24.
- 706) 川那部浩哉 (1996) 週刊新潮掲示板. 週刊新潮, 96/5/30.
- 707) 川那部浩哉; 田原総一郎 (1996) 科学はどこへ行く 8 川那部浩哉一丹後のアユに教えられた「共存の知恵」. 中央公論, 111(9): 154-167.
- 708) 川那部浩哉 (1996) 生きものの多彩なくらしー川と湖からー. '95比叡会議報告書「地球の中のいのちー生命の経済」63-83.
- 709) 川那部浩哉; 松村文衛 (1996) 本当の博物館は人々の生活そのもの: 琵琶湖博物館はその「入り口」なんです. Reality Time, 176: 2-3.
- 710) 川那部浩哉 (1996) 群集生態学ー動物を材料にしてー. 生物の科学: 遺伝, 別冊 8: 126.
- 711) Kawanabe, H. (1996) Importance of the community relationships in biodiversity. In: Microbial Diversity in Time and Space (ed. by Colwell, R. R., Simidu, U. & Ohwada, K.) Plenum Press. pp. 17-22.
- 712) 横山俊夫; 川那部浩哉; 藤井譲治; 遊磨正秀, 編 (1996) 安定社会の総合研究: ものをつくる・つかう. 205 pp. 京都ゼミナ - ルハウス, 京北.
- 713) 川那部浩哉 (1996) 安定とはなにか. In: 安定社会の総合研究: ものをつくる・つかう. (ed. by 横山俊夫; 川那部浩哉; 藤井譲治), 12-22. 京都ゼミナ - ルハウス, 京北.
- 714) 川那部浩哉 (1996) 解説にはならない解説. In: 河合雅雄著作集 1 動物社会学への旅立ち. 451-163. 小学館, 東京.

- 715) 川那部浩哉 (1996) 歴史的な生命体としての琵琶湖. In: 湖人: 琵琶湖とくらしの物語. 5. 同朋舎, 京都.
- 716) 日高敏隆; 米山俊直; 川那部浩哉; 嘉田由紀子 (1996) 琵琶湖から考える 21世紀. In: 湖人: 琵琶湖とくらしの物語. 64-69. 同朋舎, 京都.
- 717) 川那部浩哉 (1996) 与謝半島の私. 学鑑, 9(10): 28-31.
- 718) 川那部浩哉 (1996) 科学にとって地球環境問題とは何か. 創造の世界, 100: 95-103.
- 719) 石弘之; 梅原猛; 川那部浩哉; 佐和隆光; 東正彦; 福井勝義; 古沢巖; 井上民二 (1996) 二十一世紀へ生き残るための戦略. 創造の世界, 100: 113-137.
- 720) 川那部浩哉 (1996) フィールドへの誘い. In: 琵琶湖博物館展示ガイド, 1. 滋賀県立琵琶湖博物館, 草津.
- 721) 川那部浩哉 (1996) 琵琶湖博物館: 入口として楽しいものを. 京都新聞 1996/10/20.
- 722) Kawanabe, H. (1996) Asian great lakes, especially Lake Biwa. Environmental Biology of Fishes, 47: 219-234.
- 723) 川那部浩哉 (1996) 琵琶湖の魚・世界の魚. 水がはぐくむ生命, 1. In: 琵琶湖と魚と人間—東アジア的世界のなかで, 2. 琵琶湖博物館, 草津.
- 724) 川那部浩哉 (1996) 里山と私たちの暮らし. In: 開館記念特別展: 今森光彦写真展 里山生命の小宇宙. 34. 琵琶湖博物館, 草津.
- 725) 川那部浩哉 (1996) ごあいさつ. In: 琵琶湖博物館利用の手引き, iii. 滋賀県立琵琶湖博物館, 草津.
- 726) 川那部浩哉 (1996) 博物館は身近な自然やくらしの中に. モーニングくさつ, 17(19): 2.
- 727) 川那部浩哉 (1996) 水俣病研究会編集『水俣病事件資料集 1926 - 1968』. 毎日新聞, 1996/11/3.
- 728) 川那部浩哉 (1996) ”湖と人間”ゆっくり考えて. 日本経済新聞 (夕刊), 1996/11/5.
- 729) 日高敏隆; 川那部浩哉 (1996) 21世紀を目指す新しい淡海文化の創造. 日本工業新聞, 1996/11/20.
- 730) 栢木寛昭; ルシー・ラヴォア; ワダ・エミ; 川那部浩哉; 内海けい子; 奥野史子; 森田忠彦; 川村龍一 (1996) 叱かりせい! 着物フォーラム. In: 日本を見つけた: きものサミット'96 京都 報告書, 34-35. 京都商工会議所「きものサミット」開催委員会, 京都.
- 731) 川那部浩哉 (1996) 生物の多種共存—「生物多様性研究」推進の現状. 学術月報, 49(12): 31-36.
- 732) 川那部浩哉; 岸田幸治 (1996) 小説とオペラと映画の話. Duet, 51: 1-8.
- 733) 川那部浩哉 (1996) 共同研究ということ. 総合的地域研究, 1996(6): 1.

KONDO, Takaki 近藤高貴

1. 近藤高貴; 橋本真; 松村宣也 (1996) 溜池に生息するヨシノボリへのドブガイ幼生の寄生状況 陸水生物学報 11: 25-29.
2. 近藤高貴 (1996) タテボシガイに固着したカワヒバリガイ ちりぼたん 26: 102.
3. 美馬和代; 堤孝弘; 近藤高貴 (1996) 琵琶湖の水位変動が貝類に及ぼした影響 大阪教育大学紀要第3部門 45: 93-100.

KONNO, Yasuo 紺野康夫

1. 紺野康夫・平工哲夫 (1996) 帯広の森内につくられた記念の森における針葉樹の生育と林床植生. 帯広畜産大学学術研究報告 自然科学 19(4):243-252.
2. Tsutomu Hiura, Junji Sano, and Yasuo Konno (1996) Age structure and response to fine-scale disturbances of *Abies sachalinensis*, *Picea jezoensis*, *Picea glehnii*, and *Betula ermanii* growing under the influence of a dwarf bamboo understory in northern Japan. Canadian Journal of Forest Research. 26(2):289-297.

MAKITA, Akifumi 蒔田明史

1. 蒔田明史 (1996) 文化財保護の立場からの保全地域理論の検討. In: 平成 5-7 年科研費総研(A) 「生物多様性維持・利用のための保全地域理論」報告書 (代表者川那部浩哉)pp. 109 - 114.
2. MAKITA, A. (1996) Regeneration process in monocarpic bamboos, *Sasa* species. Abstracts of papers at an International symposium "The Bamboos". sponsored by The Linnean Society of London, The Royal Botanic Gardens, Kew, Wye College, University of London.10-10
3. MAKITA, A. (1996) Density regulation during the regeneration of two monocarpic bamboos: self-thinning or intraclonal regulation? *Journal of Vegetation Science* 7:281-288.
4. 蒔田明史・池田啓 (1996) エコミュージアムの素材としての天然記念物. エコミュージアム国際シンポジウム講演要旨集.
5. 西脇亜也・蒔田明史・牧田肇 (1996) 十和田湖南岸における 1995 年のチシマザサ大面積開花地でのササ種子の生残過程. 日本生態学会東北地区会報.
6. 蒔田明史 (1996) 天然記念物花ごよみ「コウシンソウ自生地」文部時報平成 8 年 6 月号
7. 蒔田明史 (1996) :天然記念物花ごよみ「ハマナス自生南限地帯」文部時報平成 8 年 8 月号
8. 蒔田明史 (1996) :天然記念物花ごよみ「赤井谷地沼野植物群落」文部時報平成 8 年 9 月号
9. 蒔田明史 (1996) :天然記念物花ごよみ「鈴が峰のヤッコソウ自生地」文部時報平成 8 年 10 月号
10. 蒔田明史 (1996) :天然記念物花ごよみ「千石山サザンカ自生北限地帯」文部時報平成 8 年 11 月号
11. 蒔田明史 (1996) :天然記念物花ごよみ「室戸岬亜熱帯性樹林及び海岸植物群落」文部時報平成 8 年 12 月号
12. 蒔田明史 (1996) :わがまちのみどり自慢「湯の宮の座論梅」FURUSATO Vitalization 平成 8 年 3 月号
13. 蒔田明史 (1996) :わがまちのみどり自慢「鰐浦ヒトツバタゴ自生地」FURUSATO Vitalization 平成 8 年 6 月号
14. 蒔田明史 (1996) :わがまちのみどり自慢「小黑川のミズナラ」FURUSATO Vitalization 平成 8 年 9 月号
15. 蒔田明史 (1996) :わがまちのみどり自慢「松屋寺のソテツ」FURUSATO Vitalization 平成 8 年 12 月号

MORI, Toyohiko 森豊彦

1. Mori, T., Arroyo, L., Miyasato, Y., Jordan, T., Martinez, S., Terrazas, D. (1996) Manual de plagas insectiles en cultivos anuales extensivos en Santa Cruz, Bolivia. 103pp. CIAT & CETABOL-JICA, Bolivia.
2. Mori, T., Miyasato, Y., Arroyo, L. (1996) Guia de insectos plagas de Macadamia en Bolovia. 20pp. CETABOL-JICA, Bolivia.
3. 森豊彦 (1996) 日本と南米の自然環境保全. 143pp. Asociacion de Ecologia en Bolivia, Bolivia.
4. 森豊彦 (1996) 南米ボリヴィアの熱帯に位置するサン・ファン地域の自然保護と森林公園計画. 30pp. サン・ファン日本 ボリヴィア協会、Bolivia.

MUKAI, Hiroshi 向井宏

1. Tayasu, I., N. Shigesada, H. Mukai and H. Caswell : Predator-mediated coexistence of epiphytic grass shrimp that compete for refuges. *Ecological Modelling*, 84:1-10 (1996)
2. 向井宏 : 藻場 (海中植物群落) の生物群集 (8) - 葉上動物の個体群動態 - 海洋と生物 102 : 44-46 (1996)
3. Nojima, S. and H. Mukai : The rate and fate of production of seagrass debris in cages over a *Syringodium isoetifolium*(Aschers.) Dandy meadow, in Fiji. In: *Seagrass Biology, Proceedings of an International Workshop, Rottneest Island, Western Australia 25-29 January 1996* (eds. J. Kuo, R.C.Phillips, D.I.Walker & H. Kirkman), p.149-154. (1996)
4. 向井宏 (分担執筆) : 「生物学辞典」第 4 版 岩波書店 (1996)

5. 松政正俊・向井宏：藻場（海中植物群落）の生物群集（9） - 葉上動物の競争と移動性 - 海洋と生物 104：218-222（1996）
6. 向井宏（訳）：パーソンズ、タカハシ、ハーグレイブ著「生物海洋学」第4巻 ベントス 東海大学出版会 pp.1-128（1996）
7. 松政正俊・向井宏：藻場（海中植物群落）の生物群集（10） - 葉上動物への捕食と攪乱の作用 - 海洋と生物 105：218-222（1996）
8. 菊地永祐・向井宏：「海底境界層のN, O代謝に対する底生動物の作用 - 現場コア法による実験」平成6年度水質調査手法に関する調査研究（海底境界層予測手法に関する調査研究）報告書 産業環境管理協会：45-57 1995年3月
9. 向井宏：「海草葉上モエビ種群の共存機構」科学研究費 重点領域研究（1）「地球共生系：生物の多種共存を促進する相互作用機構 - 研究成果報告書 - 」pp.60-63. 1996年3月
10. Hamamoto, K. and H. Mukai: The distribution of sessile animals on seagrass leaves. In: Seagrass Biology, Proceedings of an International Workshop, Rottneest Island, Western Australia 25-29 January 1996 (eds. J. Kuo, R.C. Phillips, D.I. Walker & H. Kirkman), p.375. (1996)
11. 向井宏：「厚岸湾調査」日本水産資源保護協会「平成7年度漁場富栄養化対策事業 底質環境評価手法実用化調査報告書」日本水産資源保護協会 pp.1-148

NAKAGOSHI, Nobukazu 中越信和

1. 中越信和(1996) 経済活動と景観から見た里山の維持. 第6回京都国際セミナー 生態学から見た安定社会. 里山とその自然の持続的利用. 第6回京都国際セミナー(川那部浩哉・田端英雄編)pp. 61-72. 京都ゼミナールハウス, 京都.
2. Ida, H; Nakagoshi, N. (1996) Gnawing damage by rodents to the seedling of *Fagus crenata* and *Quercus mongolica* var. *grosseserrata* in a temperate Sasa grassland-deciduous forest series in southwestern Japan. Ecological Research 11 : 97-103.
3. 中越信和(1996) メヒルギ - マングローブにしぶとく生きる. 植物の生き残り作戦(井上健 編) pp. 32-42. 平凡社, 東京.
4. 山場敦史; 中越信和(1996) 東広島市における山林の利用, 管理とその社会経済的環境から見た村落類型. 地理科学 51 : 91-108.
5. Kamada, M.; Nakagoshi, N. (1996) Landscape structure and the disturbance regime at three rural regions in Hiroshima Prefecture, Japan. Landscape Ecology 11 : 15-25.
6. Nakagoshi, N.; Numata, M. (1996) Landscape system of national and quasi-national parks in Japan. Protected Areas and Nature Conservation in East Asia (eds. by Jim, C.Y.; Li, Bosheng) pp. 155-164. Joint Publishing, Hong Kong.
7. 中越信和; 前河正昭(1996) 75年を経過した砂防植栽地におけるニセアカシア林の動態. 森林航測 179 : 10-13.
8. 中越信和; 安部哲人(1996) 広島県芸北町八幡地区の湿原植生の変容. 高原の自然史 1 : 5-38.
9. Kameya, H.; Nehira, K.; Nakagoshi, N. (1996) Growth of cultivated seedlings of *Kandelia Candelia* and *Rhizophora stylosa*. Tropics 6(1/2) : 51-64.
10. 中越信和; 日笠睦; 根平邦人(1996) 広島県立もみのき森林公園の植生. 広島大学総合科学部紀要 IV 22 : 31-45.
11. 前河正昭; 中越信和(1996) 長野県牛伏川の砂防植栽区とその周辺における植生動態. 日本林学会論文集 107 : 441-444.
12. 中越信和(1996) 景相生態学の研究手法と解析. 景相生態学, ランドスケープ・エコロジー入門(沼田眞編) pp. 14-19. 朝倉書店, 東京.
13. Hong, S.-K.; Nakagoshi, N. (1996) Biomass changes of a human-influenced pine forest and forest management in agricultural landscape system. Korean J. Ecol. 19:305-320.

NAKAMURA, Masako 中村方子

1. 中村方子(1996) ミミズのいる地球. 207pp. 中央公論社, 東京.

2. Shishikura, F.; Nakamura, M. (1996) A comparative study of earthworm hemoglobins: An amino acid sequence comparison of monomer globin chains of two species *Pontodrilus matsushimensis* and *Pheretima communissima* that belong to the family Megascolecidae. *Zoological Science* 13 : 849 - 856.

ONOHAMA, Keiichi 小野山敬一

1. 小野山敬一 . 1996. エゾナキウサギ保護の現状と問題. 北方林業, 48: 26-30.
2. 小野山敬一 . 1996. 生態学にスケールを : 書評 "Schneider D. C. (1994) Quantitative Ecology: Spatial and Temporal Scaling. xv+395pp. Academic Press, San Diego. " 日本生態学会誌, 46: 199-201.

SAKAMOTO, Kazunori 坂本一憲

1. 関鋼・坂本一憲・吉田富男 (1996) 各種畑土壌における微生物バイオマス窒素・炭素量と主要な土壌理化学性との関係 . 日本土壌肥科学雑誌 67 : 1-6
2. 坂本一憲・大塚麻子・吉田富男 (1996) 土壌の団粒粒径分布におよぼす土壌微生物相の影響 . 日本土壌肥科学雑誌 67 : 310-313
3. 早野恒一・犬伏和之・坂本一憲 (1996) 第3部門土壌生物 土壌生化学 . 日本土壌肥科学雑誌 67 (進歩総説特集号) : 487-489

SAKIO, Hitoshi 崎尾均

1. Sakio, H. (1996) Dynamics of riparian forest in mountain region with respect to stream disturbance and life-history strategy of trees. D.Sc.Thesis, Tokyo Metropolitan University, Tokyo.
2. 崎尾均 (1996) 淵が瀬となる乱世を生きる . 森の木の 100 不思議. pp.78-79. 日本林業技術協会, 東京.
3. 崎尾均 (1996) 溪畔林の更新と渓流域の攪乱 . 森の研究. pp.34-37. 日本林業調査会, 東京.

TADAKI, Yoshiya 只木良也

1. 只木良也; 柴田叡弑 (1996) 森の生き物. In: 森へゆこう - 大学の森へのいざない (ed.by 全国大学演習林協議会) pp.15-25 . 丸善, 東京.[樹木, 階層構造, 森林動物]
2. 只木良也 (1996) 森のめぐみ(2)-森と生活環境 . In: 森へゆこう - 大学の森へのいざない (全国大学演習林協議会) pp.45-53 . 丸善, 東京.[森林の環境保全]
3. 只木良也 (1996) 大気と森. 森からみる地球の未来 1 . 55pp. 文研出版, 東京.[大気組成, 二酸化炭素, 森林気候]
4. 只木良也 (1996) 環境保護にも人間のおごり. 中日新聞. 1996/2/3.[地球に優しい?]
5. 只木良也 (1996) 森林環境科学. 164pp. 朝倉書店, 東京.[森林, 環境, 環境形成作用]
6. 只木良也 (1996) 千年来の物見の森-奈良吉野山のサクラ. In: 森林-日本文化としての (ed.by 菅原 聡) pp.51-75. 地人書館, 東京.[吉野山, ヤマザクラ, 信仰, 病虫害]
7. 只木良也 (1996) 白砂青松-三保の松原. In: 森林-日本文化としての (ed.by 菅原 聡) pp.77-96. 地人書館, 東京.[三保半島, クロマツ, 産業, 松原維持]
8. 只木良也 (編) (1996) 人口集中域における望ましい自然・緑地生態系の維持管理「人間地球系」研究報告集 B008-EK23-18. 76pp. 「人間地球系」重点領域「人口集中域における望ましい自然・緑地生態系の維持管理」研究班.[都市域, 樹林, 水域, 土壌動物, 鳥]
9. 只木良也 (1996) 森の恵み. In: 海なし7県、10年のあゆみ (ed.by 森林の公益的機能拡充推進協議会) pp.78-126. 同協議会, 長野.[森林の生活環境保全機能]

10. 只木良也 (1996) 環境変化を物語る生物季節学. 中日新聞・東京新聞. 1996/4/9.[生物季節, サクラ前線]
11. 只木良也 (1996) 都市近郊の自然生態系としての「さとやま」. 鑑定しなの 3:4-11.[里山, 二次林, 環境保全機能, 生態系]
12. 只木良也 (1996) 「環境」林産物として売る仕組みを. 日本林業経済新聞. 96/6/12.[森林, 環境代価]
13. 只木良也 (1996) 愛知万博開くとしたら . C & D 107:30-31.[万博計画, 環境, 自然誌博物館]
14. 只木良也 (1996) 生態系と生物多様性 . 愛知の自然環境保全だより 1:2.[生態系, 種の多様性]
15. 只木良也 (1996) 生態学を味方にする (1) 持続可能な.... ARCHITECT 95:4-5. [sustainable, 持続]
16. 只木良也 (1996) 「森の恵み」を活かすために-「環境」は避けて通れない-. 林業経済 574:9-15.[環境保全, 森林施業]
17. 只木良也 (1996) 生態学を味方にする (2) 自然との共生 . ARCHITECT 97:4-5.[共生, 生物相互作用]
18. 只木良也 (1996) 都市における望ましい自然とは. 環境と公害 26(2):51-55.[都市, 持続可能, 共生]
19. 只木良也 (1996) 広葉樹時代に、あえて針葉樹人工林の肩を持つ. 林業技術 655:2-6.[人工林, 針葉樹林, 広葉樹林]
20. 太田猛彦; 北村昌美; 熊崎 実; 鈴木和夫; 須藤彰司; 只木良也; 藤森隆郎 (編著) (1996) 森林の百科事典. 826pp. 丸善, 東京.[森林, 木材, 事典]
21. XUE, L. and TADAKI, Y. (1996) Seasonal change in litterfall, nutrients in litterfall and nutrient use efficiency in a Japanese cedar stand. Bull. Nagoya Univ. Forest 15 : 23-30, [リターフォール量, リター内養分]
22. 酒井佳美・松井春夫・只木良也 (1996) タケ林と二次林の主要樹種における樹幹流と林内雨の成分特性、名古屋大学演習林報告 15 : 111-122, [タケ林、樹幹流、林内雨、塩素イオン濃度]
23. 平泉智子・河口順子・只木良也 (1996) 名古屋市近郊の二次林の生態 –リター量とそれによる養分の還元について–、名古屋大学演習林報告 15 : 123-140. [二次林、リター量、リター内養分]
24. 竹中千里・鈴木道代・山口法雄・今泉保次・只木良也 (1996) 愛知県稲武町における酸性雨モニタリング (II) 起源と化学組成、名古屋大学演習林報告 15 :151-171 [酸性雨、スギ、タケ]

UEDA, Keisuke 上田恵介

1. 上田恵介 (1996) ヨシゴイはなぜ集団で繁殖するのか：巣場所選びと繁殖成功. Strix 14:55-63.
2. Ueda, K. & Yamaoka, A. (1996) Territory shift of male Schrenck's Reed Warblers *Acrocephalus bistrigiceps* for improvement and/or breeding success. Jpn. J. Ornithol. 45:11-15.
3. Noske, R. A. & Ueda, K. (1996) First record of Cinnamon Bittern for Timor. Kukila 8:158-9.

WATANABE, Mamoru 渡辺守

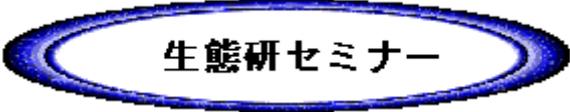
1. Watanabe, M. & Y. Nakanishi (1996) Population structure and dispersals of the sulfur butterfly *Colias erate* (Lepidoptera: Pieridae) in an isolated plain located in a cool temperate zone of Japan. Jpn.J.Ent., 64:17-29. [yellow morph, white morph, sex ratio, estimated number, dispersals]
2. Watanabe, M. & K. Sato (1996/1993) A spermatophore structured in the *bursa copulatrix* of the small white *Pieris rapae* (Lepidoptera, Pieridae) during copulation and its sugar content. J.Res.Lepidoptera, 32:26-36. [spermatophore, *bursa copulatrix*, sugar, interruption of copulation, monogamous female]
3. 村岡一幸・渡辺守 (1996) シロチョウ類の資源植物となるイヌガラシの分布と開花数. 三重大学教育学部研究紀要, 47(自然科学):37-44. [草丈, 花序数, 開花段階, 長角果, 花蜜量]

YOH, Muneoki 楊宗興

1. 楊宗興；野尻幸宏；寺井久慈（1996）湿原における窒素固定とメタン生成の関係．Jpn. J. Limnol. 57；79-80. [湿原、メタン、窒素固定、カップリング]
2. 楊宗興；木平英一；八木一行（1996）渓流水NO₃-濃度の地理的変動は大気降水物に由来したものか？ - 窒素同位体比によるアプローチ．日本環境科学会誌 9；94-95. [硝酸態窒素濃度、渓流水、大気降水物、土壌の窒素循環]
3. Terai, H.; M. Yoh (1996) Denitrification and N₂O production in Lake Kizaki. In: Cycling of reduced gases in the hydrosphere. (ed. by D. D. Adams, S. P. Seitzinger and P. M. Crill). Mitt. Internat. Verein. Limnol. 25 97-104, E. Schweizerbart'she Verlagsbuchhandlingen, Stuttgart. [denitrification, N₂O, lake, acetylene blockage technique]
4. Wada, E.; Yoshida N.; Yoshioka T.; Yoh, M.; Kabaya, Y. (1996) The abundance of ¹⁵N in N₂O in aquatic ecosystems with emphasis on denitrification. In: Cycling of reduced gases in the hydrosphere. (ed. by D. D. Adams, S. P. Seitzinger and P. M. Crill). Mitt. Internat. Verein. Limnol. 25 115-123, E. Schweizerbart'she Verlagsbuchhandlingen, Stuttgart. [¹⁵N, N₂O, denitrification, lake]

YOSHIOKA, Takahito 吉岡崇仁

1. Wada, E.; Yoshida, N.; Yoshioka T.; Yoh, M.; Kabaya, Y. (1996) The abundance of ¹⁵N in N₂O in aquatic ecosystems with emphasis on denitrification. Mitt. Internat. Verein. Limnol. 25: 115-123. [stable isotope ratio, denitrification, N₂O, isotope fractionation]
2. Wada, E.; Yoshioka, T. (1996) Isotope biogeochemistry of several aquatic ecosystems. Geochem. Internat. 33:129-149. [stable isotope ratio, lake, food web, mesocosm]
3. 吉岡崇仁 (1996) 陸水環境における地球環境変動の記録 - 地域的強制・物質循環による変質 - . 陸水学雑誌 57:62-64. [global change, limnology, local constraint, material cycle]
4. 吉岡崇仁; 上田眞吾 (1996) 同位体・溶存成分の動態から見た熱帯湿地の物質循環. 陸水学雑誌 57:85-87. [stable isotope ratio, tropical swamp, carbon cycle]
5. 吉岡崇仁 (1996) 生態学における現場観測とその意義. 水環境学会誌 19:621-625. [field observation, nitrification, aquatic environment]



生態研セミナー

スペシャル 1996年1月17日

半場 祐子（京都大学生態学研究センター）

「森林における樹木の炭素安定同位体比に光環境が及ぼす影響」

第67回 1996年1月19日

永田 俊（東京大学海洋研究所）

「微生物食物連鎖 - 拡張するパラダイム」

佐藤 一憲（室蘭工業大学）

「生態学における格子モデル」

第68回 1996年1月26日

牧 雅之（福岡教育大学）

「日本産シライトソウ属植物における雌性両生花異株の進化」

大河内 直彦（京都大学生態学研究センター）

「地球規模の赤潮：9000万年前の地球環境」

第69回 1996年2月2日

湯本 貴和（京都大学生態学研究センター）

「三大熱帯域における霊長類種子散布の比較」

丸橋 珠樹 (武蔵大学)

「霊長類と熱帯林との相互作用」

山極 寿一 (京都大学霊長類研究所)

「類人猿の同所的共存」

スペシャル 1996年2月9日

Simmathiri Appanah (Forest Research Institute Malaysia)

"Biodiversity: Does it matter?"

第70回 1996年2月16日

Simmathiri Appanah (Forest Research Institute Malaysia)

"Biodiversity: How to manage it"

梶元 敏也 (京都大学生態学研究センター)

「クモ類の配偶システムと性二型」

スペシャル 1996年3月11日

Brian Fry (Florida International University)

"¹⁵N in freshwater plants"

合同セミナー (京大生態研センター & 滋賀県琵琶湖研究所) 1996年4月2日

Pierre Legendre (Universite de Montreal)

"Relating animal behavior to habitat characteristics: Solutions to the fourth-corner problem"

Francois-Joseph Lapointe (Universite de Montreal)

"The classification of *Uisgebeatha* spp."

R.D. Roberts (National Hydrology Research Institute)

"Bacterial abundance, biomass, and production in relation to phytoplankton biomass in the Levantine Basin of the southeastern Mediterranean Sea"

中野 伸一 (琵琶湖研究所)

"Algal blooms in a eutrophicated area in Lake Biwa: Cyanobacteria in an environment favourable to diatoms"

東 正彦 (京都大学生態学研究センター)

"Algal bloom and subsurface maximum: the C-N balance mechanism"

第71回 1996年4月19日

岩堀 英晶 (京都大学農学部)

「マツノザイセンチュウによる松枯れについて」

安部 琢哉 (京都大学生態学研究センター)

「シロアリー微生物共生系～研究の現状と我々の取り組み」

第72回 1996年5月17日

宮崎 龍雄 (千葉大学理学部附属海洋生態系研究センター)

「湖沼植物プランクトンの窒素取込と競争」

山村 則男 (京都大学生態学研究センター)

「植物の防衛戦略の多様性：直接対間接、常時対誘導」

第73回 1996年5月31日

松原 健司 (京都大学生態学研究センター)

「窒素・炭素安定同位体比を用いた熱帯林の物質循環の解析
～マレーシア・ランビル国立公園におけるケーススタディー～」

山室 真澄 (地質調査所海洋地質部)

「サンゴ礁生態系における CNP 収支」

第74回 1996年6月7日

吉田 昭彦 (産能短期大学)

「東および東南アジア地域における稲、養蚕、キャッサバ、養豚などの複合農業の推進と農業振興による環境保全策」

東 正彦 (京都大学生態学研究センター)

「植物の直接及び間接防御機構の進化：共進化モデルからの考察」

スペシャル 1996年6月14日

Michel Loreau (Institute of Ecology, Pierre et Marie Curie University)

"Biodiversity and ecosystem functioning: Some theoretical issues at the interface between ecosystem and community ecology"

Dmitrii O. Logofet (Laboratory of Mathematical Ecology, IFARAN, Moscow, Russian Federation)

"Growing flowers as a matter of matrix theory"

スペシャル 1996年6月18日

Stephen Ellner (Biomathematics program, North Carolina State University)

"Fluctuating selection on life history traits: It pays to be sexual and discrete"

第75回 1996年6月21日

谷内 茂雄 (京都大学生態学研究センター)

「警告色の進化モデル」

辻 和希 (富山大学理学部)

「アリ類における集団構造と繁殖戦略」

第76回 1996年7月5日

久野 英二 (京都大学農学部)

「雌-雄 相互作用系としての個体群」

伊藤 嘉昭 (沖縄大学教養科)

「多女王制の進化-チビアシナガバチ属から考える」

スペシャル 1996年9月13日

Horst Malchow (Department of Mathematics and Computer Science, University of Osnabrueck, Germany)

"Pattern formation in predator-prey systems"

第77回 1996年9月20日

山内 淳 (長崎大学水産学部)

「成り年現象の数理モデル-貯蔵物質質量依存戦略-」

Jeffrey R. Walters (Virginia Polytechnic Institute and State University)

"The cooperative breeding system of the red-cockaded woodpecker"

第78回 1996年10月4日

高桑 進 (京都女子大学短期大学部)

「イオウ代謝細菌の自然誌」

菊沢 喜八郎 (京都大学生態学研究センター)

「森林の構造と成長-応用生態学の視点」

第79回 1996年10月18日

立石 貴浩 (京都大学生態学研究センター)

「アカマツ林火災跡地の土壌微生物バイオマスの測定」

鈴木 信彦 (神戸大学理学部生物学教室)

「植物の被食防衛と補償反応」

第80回 1996年11月1日

長谷川 雅美 (千葉県立中央博物館)

「伊豆諸島における食物連鎖の比較研究-美食連鎖と悪食連鎖-」

井上 徹志 (京都大学生態学研究センター)

「シロアリにおける消化共生系の進化」

スペシャル 1996年11月6日

橘川 次郎 (The University of Queensland)

「熱帯林の景観美を科学的に評価する方法」

第81回 1996年11月15日

岩部 直之 (京都大学大学院理学研究科生物科学専攻)

「遺伝子族の多様化と形態レベルの進化の関連性について」

和田 英太郎 (京都大学生態学研究センター)

「IGBP-MESSC 後期の研究計画と生態学における方法論について」

スペシャル 1996年12月5日

重定 南奈子 (奈良女子大学理学部)

「マツノマダラカミキリの個体群動態とマツ枯れの伝搬に関する数理モデル」

第82回 1996年12月6日

泰中 啓一（茨城大学理学部）
「格子生態系モデルにおけるパリティ則」
井上 民二（京都大学生態学研究センター）
「混交フタバガキ林の一斉開花現象－これまでにわかっていたこと」
湯本 貴和（京都大学生態学研究センター）
「1996年におこったサラワク州ランビル国立公園での一斉開花の概要」

スペシャル 1996年12月13日

永光 輝義（森林総合研究所）
「サラワクにおける非一斉開花期低地雨林でのハリナシバチによる花資源の分割パターンとプロセス」

陀安 一郎（京都大学生態学研究センター）

「シロアリにおける窒素固定と腐植食性への進化：安定同位体天然同位体分布の応用」

スペシャル 1996年12月20日

"Community dynamics in stream ecology"

竹門 康弘（大阪府立大学）

「底生動物の分布様式からのアプローチ」

谷田 一三（大阪府立大学）

「動的安定系としての河川生息場所と底生動物」

調査船「はす」運航表

調査船「はす」運行実施表(平成8年度)

月日	時間	用務内容	乗船人数
H.8 4/9	9:10 ~ 14:20	定期観測	技官2名、院生3名、共同利用2名
4/9	15:00 ~ 16:10	ボート曳航	技官1名、院生1名
4/9	9:10 ~ 15:20	定期観測	技官2名、院生4名、学部生1名、共同利用3名
6/6	9:00 ~ 13:50	定期観測	技官2名、院生3名、学部生1名、共同利用3名
6/13	9:00	サンプリング(湖上泊)	技官1名、教官1名
6/14	~ 13:00	サンプリング	"
6/26	9:35 ~ 12:40	観測及びサンプリング	技官2名、教官1名、院生3名、共同利用1名
6/27	10:00 ~ 13:10	サンプリング	技官2名、教官1名、院生3名、学部生1名、共同利用1名
7/2	9:10 ~ 14:35	定期観測	技官2名、院生4名、学部生1名、共同利用1名
7/9	9:00	観測及びサンプリング	技官1名、教官3名、院生2名、共同利用2名
7/10	~ 15:40	"	技官1名、教官1名、院生2名、共同利用1名
7/11	9:15 ~ 11:30	サンプリング	技官1名、教官1名、院生2名
7/18	9:15 ~ 12:00	サンプリング	技官1名、院生1名
7/22	9:25 ~ 13:05	サンプリング	技官1名、院生2名
7/31	8:00	観測及びサンプリング	技官1名、教官3名、院生3名、学部生1名
8/1	~ 16:00	"	技官1名、教官1名、院生2名、学部生1名

8/2	9:00 ~ 13:30	サンプリング	技官1名、教官1名、院生2名、学部生1名
8/7	10:00 ~ 13:20	京大学生実習	技官1名、教官1名、実習生5名
8/13	8:55 ~ 14:35	定期観測	技官2名、院生4名、共同利用1名
8/16	9:40 ~ 13:35	サンプリング	技官1名、院生2名
8/19	8:00	サンプリング	技官1名、教官1名、院生3名
8/20		"	同上
8/21	~ 15:50	"	同上
8/26	8:10	観測及びサンプリング	技官1名、教官1名、院生3名、共同利用2名
8/27	~ 16:00	"	同上
8/28	9:30 ~ 12:00	サンプリング	技官1名、教官1名、院生3名
8/30	14:00 ~ 16:40	サンプリング	技官1名、院生1名
9/4	8:30 ~ 16:50	サンプリング	技官1名、院生4名
9/10	8:00	観測及びサンプリング	技官2名、教官1名、院生1名、学部生1名、共同利用3名
9/11	~ 11:50	"	技官2名、院生1名、学部生1名
9/12	9:00 ~ 12:25	サンプリング	技官1名、教官1名、院生3名
9/17	9:00 ~ 13:25	定期観測	技官2名、院生3名、学部生1名、共同利用2名
10/2	8:15 ~ 15:50	観測及びサンプリング	技官1名、教官1名、院生1名、学部生1名、共同利用2名
10/3	9:45 ~ 13:15	サンプリング	技官1名、教官1名、院生1名、学部生1名
10/4	9:40 ~ 12:30	サンプリング	技官1名、教官1名、院生1名、学部生1名
10/7	9:10 ~ 14:45	定期観測	技官2名、院生2名、学部生1名
10/17	8:45 ~ 17:50	サンプリング	技官1名、院生3名
10/22	9:30 ~ 12:35	サンプリング	技官1名、院生1名
11/5	9:10 ~ 14:35	定期観測	技官2名、院生3名、共同利用2名
11/26	8:05	観測及びサンプリング	技官1名、教官1名、院生2名、学部生1名、共同利用2名
11/27	~ 15:45	"	技官2名、教官1名、院生2名、学部生1名
11/29	9:00 ~ 12:30	サンプリング	技官1名、教官1名、院生2名、学部生1名
12/9	9:10 ~ 14:35	定期観測	技官2名、院生2名、学部生1名、共同利用1名
H.9 1/10	8:50 ~ 13:45	定期観測	技官2名、院生2名、学部生1名、共同利用1名
1/27	9:50 ~ 11:40	視察	技官1名、院生1名、共同利用1名
2/10	9:00 ~ 14:40	定期観測	技官2名、院生2名、学部生1名、共同利用2名
3/4	9:00 ~ 14:35	定期観測	技官2名、院生2名、学部生1名、共同利用2名
3/11	8:00	観測及びサンプリング	技官1名、教官1名、院生2名、学部生1名、共同利用2名
3/12	~ 15:50	"	技官2名、教官1名、院生2名、学部生1名
3/13	9:00 ~ 17:10	サンプリング	技官1名、教官1名、院生2名、学部生1名

あとがき

- 第6巻にあたる今回の業績目録は、これまでの編集方針とは異なり、センターのスタッフと大学院生について、原著論文、著書、その他という区分を設けました。それぞれの区分のもとに個人名を置き、これまでスタッフの著作についていた通し番号は廃することになりました。
- これはセンターの時限10年の半分が過ぎて、自己評価の作業を踏まえたうえでの方針の転換です。読者の皆様のご批判、ご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。
- 作業は青木和枝さんの協力を得ました。厚くお礼を申し上げます。
- 協力研究員のうち、25名の方にご自身が載せるべきだと判断された著作目録をお寄せいただきました。どうもありがとうございました。

(編集担当：湯本貴和)